

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 15 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26285100

研究課題名(和文) 会計基準の国際的収斂を前提とした会計制度と会計インフラとの因果関係の解明

研究課題名(英文) Investigating the causal relationship between accounting system and its infrastructure on the premise of the international convergence of accounting standards

研究代表者

徳賀 芳弘 (TOKUGA, Yoshihiro)

京都大学・経営学研究科・教授

研究者番号：70163970

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、従来の国際会計研究の問題点を洗い出すとともに、当該問題を克服する新しい分析枠組みと分析方法を構築することを目的としている。

先行研究の問題点として、時間効果と導入効果との区別が必ずしも明確でないこと、および会計インフラの変化の影響をとらえていないことが指摘できる。そのため、上記の問題点を克服する新しい分析枠組みとして、共進化モデルを提示した。具体的には、DID分析による実証研究と過程追跡アプローチによる事例研究を相互補完的に統合することによって、会計基準の国際的な相違と調和、会計インフラストラクチャの連続と断絶の共存という世界の会計の現状を総合的に把握することが可能となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to examine research gaps in traditional international accounting studies and reconstruct new research framework and method.

Prior studies have such problems as they could not clearly distinguish time effects and implementation effects, and they could not capture the changes in accounting infrastructure. To overcome these problems, we succeed to identify the relationship in which accounting standards and its infrastructure influence and change each other as "co-evolution". Specifically, combining Difference-in-Difference (DID) technique and process-tracing method, we can comprehensively understand actual state of today's international accounting that international difference and harmonization of accounting standards coexist, and continuity and discontinuity of accounting infrastructure coincide.

研究分野：社会科学

キーワード：国際会計 比較会計 共進化 会計インフラストラクチャ 研究方法論

1. 研究開始当初の背景

(1) 会計基準の国際的調和・収斂への取り組みは、1960年代後半から始まっていたが、2000年にEUが国際会計基準の強制適用に向けて動き始めて以降急速に押し進められた。その結果、会計インフラの相違にもかかわらず同一の会計基準をもつ国が多数存在することとなった。さらに同一国内においても複数の会計基準が併存するようになり、従来の会計基準と会計インフラとの因果関係に基づく比較会計論や会計類型化論は、その説明力を低下させている。

(2) このような状況の中で、国際会計研究のテーマも、従来の比較会計研究から国際会計基準導入に関する各国および地域の事例研究、あるいはその経済的影響に関する経験的研究へと大きく変化している。

(3) しかしながら、近年の国際会計基準の影響に関する実態調査や実証研究の成果によって、会計基準の国際的調和化・収斂・アドプションにもかかわらず、各国・地域ごとに国際会計基準の導入の仕方に相違がみられること、アドプションの経済的影響の顕現の仕方が各国の会計インフラのあり方によって相違すること、さらには国際会計基準の導入によって会計インフラ自体も変化することが徐々に明らかにされつつある。また、国際会計基準導入の事前・事後比較型の実証研究は、分析対象国の旧会計インフラの持続を所与とせざるをえず、国際会計基準導入がもたらした中長期間での会計インフラの変化を分析の射程に収めていないため、国際会計基準の影響をダイナミックに捉えていない。

(4) そのため、導入される会計基準が変質する現象や会計基準の変化による会計インフラの変化も射程に収めた新たな分析枠組み(会計制度と会計インフラが双方向に影響し合い、変化する)を構築し、定性的な研究に定量的な研究を組み合わせた分析方法が必要である。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、各国および地域における「国際会計基準」の導入・適用の仕方、および会計インフラストラクチャの変化を多面的に分析することにより、会計における国際比較の新しい分析枠組み・分析方法を構築することである。

(2) 具体的な課題として、第1に、従来の比較会計研究および関連する実証研究に関する問題点を洗い出し、それを克服する新しい研究の枠組みと分析方法を提示する。第2に、開発した方法を実際に適用した時の問題点を再度洗い出し、分析方法の修正・洗練化を図る。第3に、アカデミックな国際会計研

究の進展に貢献するのみでなく、会計基準と会計インフラとの関係を解明することによって、基準設定・制度設計に重要な貢献を行う。

3. 研究の方法

(1) 各国および地域における会計インフラの変化を多面的に把握するために、具体的に以下の点について研究を行っていく。

先行研究・方法論の整理および文献の収集
国際比較研究・類型論、比較会計制度論、実証研究における代表的なテキストおよび文献に関する経年的な調査・分析を行い、研究対象および研究方法の変化、ならびに理論的考察による成果に関する分類および整理を行う。

国別地域別研究

欧州、南北アメリカ、アジア・オセアニア地区、および日本に関して、国際会計基準の導入・適用の仕方および導入に伴う会計インフラの変化に関する実態調査、並びに経済的影響に関する時系列に基づく連続的な実証分析を行う。

(2) 新しい国際比較の枠組みを構築するために具体的に以下の研究を行っていく。

分析枠組みの提案

従来の分析枠組み・分析方法における問題点の洗い出しに基づいて、新たな分析枠組みを構築し、当該枠組みに依拠して新しい分析方法の開発を行う。

分析枠組み・分析方法の改良と再適用

実態調査・事例研究・実証研究の過程および結果に基づいて、提案した新しい国際比較の枠組み・分析方法の問題点を洗い出し、方法論的に検討を行う。

4. 研究成果

(1) 会計と会計インフラの変化の理論的同定

先行研究は、IFRSの導入が一定程度の正の影響をもたらす一方で、それらが国・地域ごとの会計インフラストラクチャの違いに影響を受けることを示唆している。他方、分析上の問題点として、多くの実証分析において、時間効果と導入効果との区別が必ずしも明確でないこと、および会計インフラの変化の影響をとらえきれないことが指摘できる。上記の問題点を克服する新しい分析枠組みとして、会計基準と会計インフラストラクチャの双方が規定し合い、同時に変化するという関係を新制度派経済学に基づいて共進化として理論的に同定することに成功した。

(2) 新しい分析枠組みの構築とその運用
国際会計基準の導入効果を明らかにする

ためには、具体的に、自国基準を採用している企業をコントロール・サンプルとする DID (difference-in difference) 分析が有効である。ただし、DID 分析によっても、会計インフラストラクチャがもたらす因果メカニズムを明らかにすることは不可能であるため、詳細な事例研究を同時並行的に行っていく必要がある。その際、国際政治研究において多くの成果を挙げている事例研究の一種である過程追跡アプローチが有効であることが分かった。このように、実証研究と事例研究を相互補完的に統合することによって、会計基準の国際的な相違と調和、会計インフラストラクチャの連続と断絶の共存という世界の会計の現状を総合的に把握することが可能となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

王 昱、中国変動持分事業体に関する一考察、国際学研究、査読無、6 巻 1 号、2017、27-36

潮崎智美、欧州資本市場における local GAAP の適用 - ドイツの事例を中心として -、国際会計研究学会年報、査読有、2015 年度 1 巻、2016、71-82

真田正次、国際会計基準審議会 (IASB) の組織的正統性 - 新制度派組織論の視点から -、就実経営研究、査読無、1 号、2016、13-30

勝尾裕子、測定の不確実性と目的適合性 IASB 概念フレームワークにおける質的特性、産業経理、査読無、75 巻、2016、71-80

徳賀芳弘、IFRS 対応の課題 何がなぜ受入困難か、青山アカウンティング・レビュー、査読無、5 巻、2015、72-79

徳賀芳弘、IASB の会計基準設定姿勢の変化とその意味 原則主義アプローチの位置づけの変化、商学論究、査読無、63 巻、2015、111-131

徳賀芳弘、角ヶ谷典幸、Controversies over the Development of Japanese Modified International Standards (JMIS)、Korean Accounting Review、査読有、Vol.40、2015、299-335

潮崎智美、EU・ドイツにおける国際財務報告基準 (IFRS) 導入の影響、九州 EU 研究会ニュースレター、査読無、29 巻、2015、3

勝尾裕子、IASB 概念フレームワークにお

ける利益概念、企業会計、査読無、67 巻、2015、51-60

勝尾裕子、Bea Chiang、Al Pelhem、Environmental Costs、Social Responsibility and Corporate Financial Performance: A Closer Examination of Japanese Companies、American Journal of Business Research、査読有、Vol.8、2015、39-52

王 昱、中国における公正 (公允) 価値概念の整理 「企業会計基準第 39 号: 公正価値測定」を中心に、商学論究、査読無、63 巻、2015、377-394

Carien van Mourik、勝尾裕子、The IASB and ASBJ Conceptual Frameworks: Same Objective、Different Financial Performance Concepts、Accounting Horizons、査読有、Vol.29. No. 1、2015、199-216

13 王 昱、A Comparison of China's Basic Standard and the IASB's Conceptual Framework、Kwansai Gakuin University Social Science Review、査読無、Vol.19、2014、95-105

14 潮崎智美、ドイツへの IFRS 導入に伴う影響、企業会計、査読無、66 巻、7 号、2014、102-103

15 潮崎智美、EU における会計基準設定と学術研究、企業会計、査読無、66 巻、8 号、2014、102-103

16 首藤昭信、Takuya Iwasaki、Stable Shareholdings、the Decision Horizon Problem and Pattern of Earnings Management、RIEB Discussion Paper Series、査読無、DP2014-18、55

[学会発表](計 26 件)

徳賀芳弘、滝西敦子、Kyoto Entrepreneurism-The Zest and Spirit of the One and Only Business with Long-Standing Traditional Craftsmanship、招待講演、2016 年 12 月 26 日、釜山国立大学 (韓国)

真田正次、マクロ会計政策の進化多様性 日本のケース、日本会計研究学会第 75 回大会、2016 年 9 月 13 日、静岡コンベンションセンター

真田正次、原則主義会計基準の指標化の方法 Mergenthaler 論文を中心として、国際会計研究学会第 33 回研究大会、2016 年 8 月 28 日、関西学院大学

徳賀芳弘、真田正次、Changes in the International Accounting Standards Board's Standard-setting Approach: A Focus on the Principles-based Approach、アメリカ会計学会年次大会、査読有、2016年8月9日、ニューヨーク(米国)

徳賀芳弘、米山正樹、IFRS Adoption across Japan, Korea, and Taiwan、アメリカ会計学会年次大会、招待講演、2016年8月9日、ニューヨーク(米国)

勝尾裕子、Profit or Loss in the 2015 IASB Conceptual Framework、アメリカ会計学会年次大会、査読有、2016年8月8日、ニューヨーク(米国)

真田正次、The Social Construction of Accounting Reality: Translation of Principles-Based as Discourse、Joint International Conference of the Journal of International Accounting Research (JIAR) and Accounting, Organizations and Society (AOS)、査読有、2016年7月30日、アウグスブルク(ドイツ)

勝尾裕子、Recognition and Measurement of Profit or Loss in the 2015 IASB Conceptual Framework Exposure Draft、The 28th Annual Meeting conference of the Society for the Advancement of Socio-Economics、査読有、2016年6月25日、カリフォルニア州バークレー(米国)

潮崎智美、EUにおけるIFRS研究の新動向：IFRS強制適用後の国際会計研究、国際会計研究学会関西西部会、2016年7月30日、広島修道大学

宮宇地俊岳、Differences in Comment Letter Participation for Global Accounting Standard Setting among Various Stakeholders: The Case of the Establishment of the Accounting Standard Advisory Forum、2016 Management Theory and Practice Conference、査読有、2016年4月4日、京都大学

徳賀芳弘、原則主義とIASB、招待講演、2016年3月5日、九州大学

徳賀芳弘、Kyoto Entrepreneurship、Special Lecture、招待講演、2015年12月23日、国立台湾大学(台湾)

13 徳賀芳弘、IASBの会計基準設定姿勢の変化とその意味、日本会計研究学会特別委員会主催講演会、招待講演、2015年12月13日、甲南大学

14 真田正次、会計基準と法的インフラストラクチャの共進化 日本のケース、日本会計研究学会第65回関西西部会、2015年12月12日、大阪市立大学

15 潮崎智美、欧州資本市場におけるlocal GAAPの適用 ドイツの事例を中心として、国際会計研究学会第32回研究大会、2015年10月4日、専修大学

16 徳賀芳弘、Principles-Based Approach vs. Rules-Based Approach to Accounting Standards、The Third Biennial Koc University-Kyoto University Research Forum: Workshop on Management & Finance、招待講演、2015年9月19日、イスタンブール(トルコ)

17 勝尾裕子、The Concept of Net Income and Comprehensive Income - Consistency between Windfall and Subjective Goodwill、The 11th Workshop on European Financial Reporting、査読有、2015年9月4日、パリ(フランス)

18 宮宇地俊岳、真田正次、The Politics of Global Accounting Standards: The Case of the Accounting Advisory Forum、アメリカ会計学会年次大会、査読有、2015年8月12日、シカゴ(米国)

19 勝尾裕子、Consistency between the Recognition of Windfall、Subjective Goodwill and the Concept of Income、アメリカ会計学会年次大会、査読有、2015年8月10日、シカゴ(米国)

20 徳賀芳弘、グローバリゼーションと会計制度の国際標準化 会計制度の共通基準化と各国の固有性に着目して、戦略会計研究会2015年度記念大会、招待講演、2015年6月12日、東京理科大学

21 勝尾裕子、Consistency between the Recognition of Windfall、Subjective Goodwill and the Concept of Income、ヨーロッパ会計学会年次大会、査読有、2015年4月30日、グラスゴー(英国)

22 徳賀芳弘、真田正次、Association between Accounting System and its Infrastructures: A New Analytical Framework for International Accounting Study、第12回会計教育研究学会国際会議、査読有、2014年11月11日、フィレンツェ(イタリア)

23 Bea, C.、勝尾裕子、Pelham, A.、Environmental Costs, Social

Responsibility and Corporate Financial Performance - A Closer Examination of Japanese Environmental Accounting, American Institute of Higher Education 2014 Conference、査読有、2014年11月1日、アーリントン(米国)

24 勝尾裕子、自己創設のれんの認識とウィンドフォール、日本会計研究学会全国大会、2014年9月5日、横浜国立大学

25 Bea, C.、勝尾裕子、Pelham, A.、Environmental Costs、Social Responsibility and Corporate Financial Performance - A Closer Examination of Japanese Environmental Accounting、アメリカ会計学会年次大会、査読有、2014年8月6日、アトランタ(米国)

26 真田正次、Comparative Study of the Legal Bases of Accounting Standard Setting: The Case of the Accounting Standards Board of Japan、ヨーロッパ会計学会、査読有、2014年5月21日、タリン(エストニア)

〔図書〕(計1件)

徳賀芳弘編著、中央経済社、京都企業 歴史と空間の産物、2016、315

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳賀 芳弘 (TOKUGA, Yoshihiro)
京都大学・経営管理研究部・教授
研究者番号：70163970

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

勝尾裕子 (KATSO, Yuko)
学習院大学・経済学部・教授
研究者番号：70327310

首藤昭信 (SHUTO, Akinobu)
東京大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：60349181

王昱 (OH, Iku)
関西学院大学・国際学部・教授
研究者番号：40411061

潮崎智美 (SHIOSAKI, Tomomi)
九州大学・大学院経済学研究院・准教授
研究者番号：70336072

宮宇地俊岳 (MIYAUCHI, Toshitake)
追手門学院大学・経営学部・准教授
研究者番号：90609158

真田正次 (SANADA, Masatsugu)
就実大学・経営学部・准教授
研究者番号：90636911

(4) 研究協力者

Jong-Seo Choi (CHOI, Jong-Seo)
釜山国立大学(韓国)・経営大学・教授

Chan-Jane Lin (LIN, Chan-Jane)
国立台湾大学(台湾)・管理学部・教授

Nadia Albu (ALBU, Nadia)
ブカレスト経済大学(ルーマニア)・会計
経営情報学部・教授